

「生徒が主役」を実現する3つの工夫による授業実践

～2年1組の2年目の挑戦～

立山 泰伸

本校ではダンスの授業の一環として4年前から内閣府・文部科学省後援の全国小中学校リズムダンスふれあいコンクールに参加している。このコンクールは、学習指導要領において必須となったダンスの「現代的なリズムのダンス」を学級単位で発表する機会を提供するもので「リズムダンスを通じ小中学生の豊かな人間性の育成や体力の向上を目的とし、また生徒が全国大会という目標を掲げることで、より学習に興味を持つように促し、教育の一環として貢献する」ことを目指している。

昨年度、本校現2年1組が初めての挑戦ながら予選を見事突破し、東京で行われた全国大会への出場を果たすことができた。しかし、本戦ではダンスの完成度やテーマ性など他県のチームとの差を痛感し、来年こそは上位入賞をみんなで誓った大会であった。

そこで、今年は、テーマ設定からみんなで話し合い、昨年度の入賞チームのダンスを参考にどうしたら全国で通用するダンスになるか、総監督の進次郎を中心に取り組んだ2年1組の挑戦を報告する。

1, 学びの実際

(1) 生徒を主役にする3つの工夫

本校が大事にしている「生徒が主役」は生徒が主体的に活動していくための重要なキーワードであり、体育の授業においてもカリキュラムデザイン、学習カードの工夫、場の設定の工夫などで「生徒が主役」の授業を実現させていきたいと日々試行錯誤している。

本単元においても「生徒が主役」を実現するために「メタ認知」を活用した学びの高め合い活動を試みた。メタ認知とは、「自分が能動的に行っている言動について、もう1人の自分が客観的な立場から、その言動を調整したり調和したりする能力」のことである。つまり客観的に自分たちのダンスを分析し、お互いに意見を出し合いながらより良いものにしていく授業を目指していく。それを可能にするために本単元では3つの工夫を試みた。

<組織づくりの工夫>

体育の授業においてグループ編成はとても重要である。それによってその後の学習活動が大きく左右されると言っても過言ではない。種目や学習のねらいによって等質集団、異質集団を使い分ける。

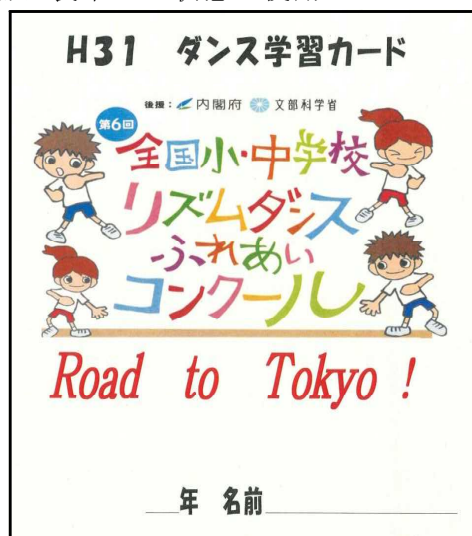
本授業ではダンスの構成上、7つのグループに分け、グループ内での教え合い活動ができるように異質集団を編成した。

<学習カードの工夫>

体育の授業にとって、見通しをもった活動や自分の活動目標をはっきりさせるために学習カードの活用はマストである。

今までもダンスの学習カードは使用して

いたが、本年は生徒の要望もあり、ダンスのテーマ設定から行き、プレ発表の考察・評価、授業を終えての振り返りまでをステップ1～ステップ6までに編集し、それ通りに進めていけば学習できるようカードを1冊に製本した状態で使用していった。



<メタ認知させるための工夫>

メタ認知させるためには客観的に自分たちの動きを認識させることが必要である。そのために本単元では、ICTを最大限に活用していった。

規定のダンスの練習をする時には、グループにタブレットを持たせ、自分たちの動きを撮影し、見ることで、見本の動きとどこが違うか、自ら認知できるようにした。

また、全体練習の時には、ビデオカメラでみんなの動きを撮影し、リアルタイムに正面スクリーンに映すことで、自分達の動

きを実際に見ながらダンスができるようにしていった。これによって全体のバランスやタイミングのずれなど客観的に自分で把握しながら修正していけるようにした。

(2) 2年目の挑戦がスタート

いよいよ、ダンスの季節がやってきた。この頃になるとダンス好きの生徒から「今年の課題曲は何ですか?」という問い合わせがあり、この取り組みが安居中学校のスクールカルチャーとして根付いて来たことを感じる。

2年1組では、昨年度初エントリーながら、予選を突破し、全国大会への出場を果たした。しかし、全国の壁は厚く、上位入賞チームとのレベルの差を痛感した。しかし、次回への高いモチベーションへとつながった大会でもあった。

(3) グループリーダーと総監督

(第1時)

まずは、組織づくりからである。毎年、3～4人の小グループに編成し、その中から、グループリーダーを選出している。今年は、昨年の実績から核となるリーダーをみんなの話し合いの中から先に選出し、そこに他の生徒を割り振っていく形式を取った。例年グループリーダーを決める際に、自分に自信がなくてなかなか決まらないことが多いが、この2年1組はやはりダンスに対してのモチベーションが高く、もめることなくスムーズに決まっていた。

さらに、そのグループリーダーの統括として総監督を置いているが、今年は全会一致で進次郎に決まった。進次郎は運動能力が高く、クラスの中心的存在だが、夏休み明けから腰痛を発症しており、体育の授業は見学することが多かった。ダンスの授業も見学していたが、クラスのみんなが彼を推薦し、進次郎も自分ができない分、総監督としてダンスに積極的に関わっていきたいと快諾した。それは、「去年は東京で悔しい思いをしたので、今年もみんなで東京へ行って、是非リベンジをしましょう」という進次郎の所信表明にもよく表れていた。

(4) ダンスのテーマを決める (第2時)

「今年で全国で勝てるダンスにしたい」ということを進次郎は考えていた。ある日の昼休み進次郎と教員のディスカッションが行われた。

進次郎：「先生、今年は何としても勝ちたいんですが、どうしたらいいと思いますか?」

教員：「何か案はあるの?」

進次郎：「去年はダンスを先に創ってから、

それに合ったアピールポイントとかを考えたんですが、それでは弱いと思うんですね。」

教員：「じゃあ、今年はどうなダンスにするかテーマ設定からする?」

進次郎：「はい、できるか自信はありませんがお願いします。」

ということで、次の授業では、今年のダンスのテーマについての話し合いが以下のように行われた。



グループ毎にテーマを考える生徒達

- 手順①自分たちのクラスはどんなクラスなのかを見つめる。
 手順②クラスの実態からどんなダンスにしたいか考える。
 手順③そのダンスに相応しいテーマを考える。
 手順④ テーマに合った楽曲を選択する。

ステップ1 「ダンステーマを考えよう！」

○自分たちのクラスにふさわしいダンスのテーマを考えよう。

<審査基準>各10点

①動きの完成度：規定曲と「規定振り」の特徴を捉え、「規定振り」を十分に踊りこなしているか。

②空間の工夫・独創性：「規定振り」以外の振りや、全体構成、空間構成、など工夫がなされているか。

③躍動感、元気良さ：生き生きとした活力がなごる踊りになっているか。

④リズム・動きの変化：曲やリズムの特徴を捉え、リズムにのって踊っているか。

⑤チームワーク・同調：一人一人が同調し、まっすぐに一体になって踊っているか。

<自分たちのクラスってどんなクラス?>

1人1人が個性あふれるクラス

<どんなダンスにしたい?>

明るいダンス
動きが大きいダンス
レジャッシュのダンス
いろいろ動きまわるダンス

<今年のダンステーマは?>

楽しむことに意味がある
ポピュラーのようにならなれ!!!

<どのダンスを表現するにはどっちの曲か?> ○で囲もう

「You can do it!!!!」
★スカイピース

「By your side」
★FlowBack

話し合いの手順を示した学習カード

手順①～③まで、まずは学習カードを使い、個人で考えた。その後、小グループで自分の考えを発表し合い、グループの意見としてホワイトボードにまとめていった。

話し合いの前に参考資料として昨年度入

賞した学校のテーマを紹介し、実際にダンスの動画を見た。改めて、自分たちとの差を痛感し、感嘆の声やため息が漏れる。

個人の考えを学習カードにまとめたあと、グループでの話し合い活動が始まった。

進次郎：うちのクラスってどんなクラス？

生徒A：笑いの絶えないクラス。

生徒B：一人一人の個性があふれている。

生徒C：ユーモアがある。

生徒A：とにかく明るいクラス。

進次郎：仲間いいよね。

生徒A：生徒主体の行動ができる。

進次郎：じゃあどんなダンスにしたい？

生徒C：僕はとにかく楽しいダンスにしたい。

生徒B：去年は動きが小さかったから、動きが大きなダンスにしたい。

生徒C：いいねえ。

生徒A：リズムにのったキレイキレイのダンス。

生徒B：みんなが汗だくになって動き回れるダンスにしたい。

みんな：うん。

進次郎：じゃあ、テーマはどうする。

生徒C：安居はホテルが有名だから、ホテルを入れたい。

みんな：それいいね。

進次郎：一人一人が個性あるっていうのは、ホテルのように光るで表せるよね。

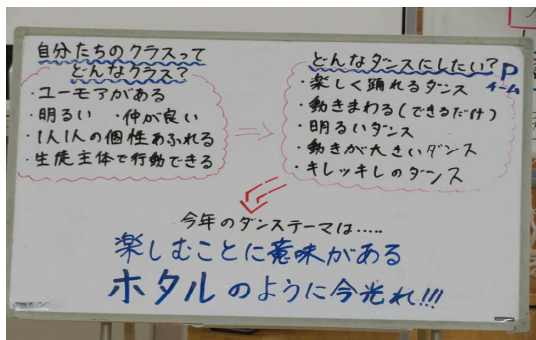
生徒B：あとはやっぱり楽しむこと！

みんな：賛成！

話し合いの結果、進次郎のグループでは「楽しむことに意味がある

ホテルのように今光れ!!」

という案に落ち着いた。



進次郎グループのホワイトボード

その後、各班で話し合われた内容が書かれたホワイトボードに見せながらみんなの前で発表し、各班の考えたテーマを発表し合った。どの班も、クラスの特徴をよく捉えており、「明るい」「仲がよい」「個性がある」などが共通のキーワードとなって出

てきた。どんなダンスにしたいかでは、どの班も「楽しく」という言葉が入っておりみんなのダンスに対する前向きな気持ちがよく表れていた。

各グループで考えた、いろいろなテーマが発表されたが、最終的に「ホテル」が決め手となり、進次郎グループのテーマが採用された。



グループでの発表会の様子

総監督の進次郎は自分達の班の案が採用され、よい作品にしたいとますます意欲が高まったようであった。

(5) 規定の動きを練習する

(第3時～第6時)

ダンスは約1分間の規定のダンスと約1分間の創作ダンスの2部構成になっている。そのため、まずは規定の動きを覚えることからダンスの授業はスタートする。グループ毎にタブレットを使い、ダンスの事務局から配布される見本の動画を参考に練習していった。

ただ、練習するのではなく毎時間、学習カードを活用し、現在の自分のダンスの完成度や難しかった所、次回の課題などを記録させた。これにより次時の授業の課題が明確になり、主体的に授業に取り組めるようにするだけでなく、自己満足感や達成感が味わえるように工夫した。

ステップ2 「規定振りを覚えよう！」			
	ダンスの完成度	難しかった所や次回の課題	今日のMVP
①	50%	肩が硬い、腕の振り、足の踏み込み	ふん、元気な声!
②	70%	リズム感、足の踏み込み、腕の振り	真平、動きが流暢!
③	93%	リズム感、足の踏み込み、腕の振り	まな、元気な声!
④	96%	リズム感、足の踏み込み、腕の振り	真平、動きが流暢!
⑤	100%	リズム感、足の踏み込み、腕の振り	真平、動きが流暢!

自己の進み具合がよく分かるカード

(6) 創作の動きをグループ毎に考える (第7時～第10時)

規定の動きがだいたいできてきた所で、いよいよ創作に入っていく。創作は7つのグループが8呼間×2の16呼間の動きを考え、他の班にレクチャーしていく方法をとっていった。

ステップ3 「テーマに合った動きを考えよう」	
ダンステーマ 楽しいことに喜びを感じる ホテルのように輝け	
☆担当パート	
1分05秒 ~ 1分13秒の16呼間	
個人の動き	① (4)呼間 ダンスができて 追いつくのが大変だった
隊形	② (4)呼間 形を伸ばすのが 正しい形になると感じた
個人の動き	③ (4)呼間 休ませたいから、 動きを小さくした
隊形	④ (4)呼間 前と後ろに行く人 を減らした

グループ毎に動きを考えたカード

今年は、最初にテーマを考えため、「楽しいダンス」「みんながホテルのように輝けるダンス」に相応しい振り付けを考えていった。しぼりがあり、最初は難しかったようであるが、授業を終えての感想の中には逆にその方が創りやすかったという意見も多くあった。

(7) 動きを組み合わせる

(第11時～第14時)

それぞれのグループの創作ダンスができ上がったところで、つなぎやフォーメーションの修正に入る。実はここからがこの授業の1番大変なところで、総監督進次郎の腕の見せ所でもある。ここでは、オープニングを創った時の進次郎とクラスのみんなとの様子を紹介する。

進次郎：今日はオープニングの隊形をします。去年の全国大会を見て、今年はこうしたいとかありますか？

生徒D：並び順とか大切だと思った。

生徒E：全員の顔が見れるようにしたい。

進次郎：みんなはステージの発表を見る時にどこを見ていた？

素晴らしい発問だと思った。ダンスはやる側よりも審査する側の視点が必要だということ進次郎の思いからだった。

生徒D：やっぱり中心かなあ。去年はみんなの顔が見えるように背の高さを考えて並べていたけど、ダンスが得意な人を中心に配置した方がいいと思う。

進次郎：そうですね。他にありますか？

生徒E：男女のバランスも考えた方がいいと思う。

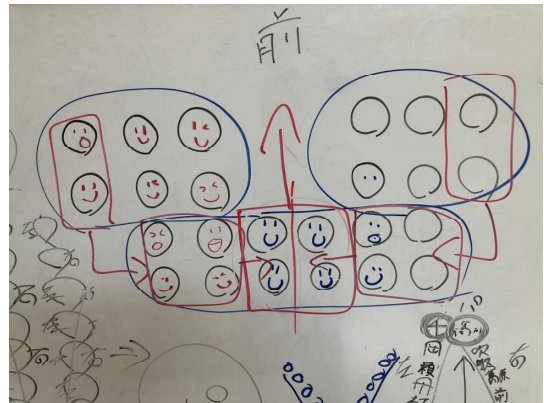
生徒F：去年女子のグループが多くて、安居の発表の後、審査員が男子のこと褒めてくれたから、男子もアピールできるといいなあ。

みんな：賛成。

進次郎：では、これらのことを考えて、オープニングを創っていきましょう。

生徒F：オープニングで花道を作って後ろから総監督が登場するっていうのはどう？

みんな：それいいね。



オープニングの構想図

腰痛でなかなか上手に踊れない進次郎に対して、また、総監督として彼の功績をリスペクトしているクラスみんなのあたたかい思いが伝わってきた。

「ダンスの上手な人を中心に置く」「男女のバランスを考える」「総監督をオープニングで登場させる」の3点を話し合いで決め創作していった。

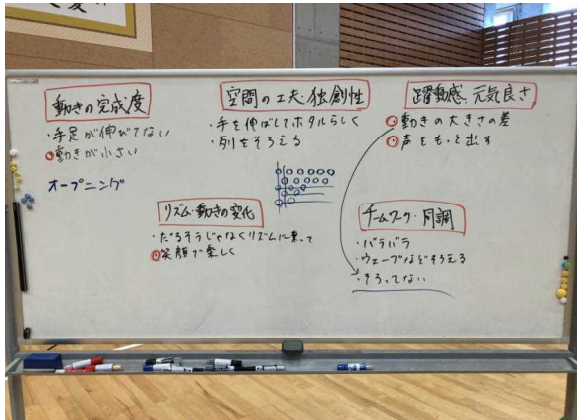
(8) プレ発表からの修正&本番撮影

(第15・16時)

組み合わせも終わり、仕上げに入っていく。ステップ5はプレ発表からの修正である。プレ発表を撮影し、その映像を見ながらみんなが気がついたことを言っていく。あらかじめ学習カードに審査の5つの観点「動きの完成度」「空間の工夫・獨創性」「躍動感・元気良さ」「リズム・動きの変化」「チームワーク・同調」を示し、総監督を中心にそのカテゴリー毎に振り返るようにした。「動きがそろってない」「動きが小さい」「表情が暗い」など厳しい意見が続出した。

進次郎：たくさん意見が出てきましたが、もう時間があまりないので、項目を絞って修正したいと思います。

ここまでは、事前に教員と打ち合わせしていた。あれもこれも修正はできないから項目を絞らないと難しいと進次郎にアドバイスしておいたが、次の進次郎の質問に感心した。



みんなから出てきた振り返り

進次郎：今回のテーマを達成するためには、この中で何が大切？

なるほど、ここでテーマを出してきた彼の発想力は素晴らしい。テーマに始まってテーマで終わる。よく目標は決めるけど決めただけということがよくある。進次郎はテーマを大事にしたかったのだ。

生徒G：やっぱり笑顔が大切！
みんなうなづく。

進次郎：笑顔だけで、優勝できる？
みんな首を横に振る。

生徒H：もっとみんなの動きを合わせないとダメ！

生徒G：声もしっかり出さないと！

その後の練習は、普段、受け身的な男子生徒からも細かいタイミングの質問が積極的に出るなど、一段と気合いが入ったように感じた。それは、生徒全員の修正していく方向が一致したためだと思われる。

総監督もいつになく大きな声を出し、みんなの指導に熱が上がっていた。その後ろ姿は自信に満ちあふれており、今までで一番頼もしく感じた。

そして、ついに本番の撮影を終えた。完成した作品を見つめる顔は、みんな満足げで、笑顔が絶えなかった。

最後に進次郎の感想から今回の授業での彼の学びを振り返る。

ダンスの楽しさは、仲間と対話しながら主体的に創作活動し、それでいいのかと深く考え、より良いものを生み出すことにあると考える。進次郎は、その楽しさを味わうことができた。

今回のダンスでは、自分は総監督となりましたが、自分はケガをしていてあまり動けないし、みんなも今年も全国へという思いがとても強かったと思うのでプレッシャーを感じていました。全国で勝つために、今年は、テーマ決定から行い、それに合うようなダンスを創るということをしてしまいましたが、なかなか難しく、これで全国へ行ってしまうのかという思いが常にありました。特に「ホテル」をどう表現するかということが難しかったです。しかし、クラスみんなの支えもあり、最後にはみんなが納得するダンスができて本当に良かったと思います。今回総監督という役目を果たせて、ダンスの楽しさを去年の何倍も味わうことができたと思います。絶対全国へ行きたいです。

進次郎の授業後の振り返り

それから数日後、2年1組の教室は歓喜の声であふれていた。見事予選を通過したのだ。

2. ふりかえり

今回の授業では、テーマ設定からプレ発表の振り返り・修正まで約16時間(計画では12時間)かかってしまった。生徒主体の活動だと時間的なロスがあることが否めない。そこで、教員が生徒たちの活動を「生徒が主役」であるように、どうコーディネートしていくかが重要であると痛感するとともに、今後の課題としていきたい。

また、テーマ設定の話し合いでは、全体シユアリングにもっと時間をかけたかったが、運動量の確保という厚い壁に勝てず、あまり時間を確保することができなかった。探究活動と運動時間の兼ね合いが体育では難しいと改めて感じた。



生徒達の努力の甲斐があり、今年も全国へ行くことができたが、入賞を逃した。生徒達のプロジェクトはさらに続く。

【参考文献】メタ認知で〈学ぶ力〉を高める
認知心理学が解き明かす効果的学習法

三宮真智子 北大路書房 2018